

令和4年度 第4回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和4年度 第4回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和5年3月13日 午後2時00分から午後4時00分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出席者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、中屋委員、保尊委員、丸山委員、増田委員、武井委員、山地委員、上條委員、岡江委員、矢花委員、五十嵐委員、平林委員、池田委員、崎元委員
5	市側出席者	山田市民生活部長、山口環境課長、百瀬環境課長補佐、藤原環境政策担当主査 説明者：信州大学 榎原助教(報告事項の(2))
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和5年3月14日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) あづみの水結ロゴマークの決定について
  - (2) あづみ野排水路における地下水涵養効果実験について
- 4 協議事項
  - (1) 令和5年度 事業計画(案)について
- 5 その他
  - (1) アルプス地域地下水保全対策協議会による(仮称)「松本盆地流域水循環計画」の策定について
- 6 閉会

会議概要

- 1 報告事項
  - (1) あづみの水結ロゴマークの決定について  
【資料1に基づき説明(事務局)】
    - ・3月末に決定したロゴマークを印刷した登録証を、あづみの水結登録申込者に交付予定ということだが、登録申込者は現時点でどのくらいなのか。
 ⇒12者となっている。
    - ・ロゴマークのデザインも素晴らしいと思うので、安曇野市が行う環境イベント等に積極的にこのロゴマークを使用して欲しい。
  - (2) あづみ野排水路における地下水涵養効果実験について  
【資料2に基づき説明(信州大学 榎原助教)】
    - ・資料20ページのデルタダイアグラムの箇所について、GW3、GW4、GW5には落水場所から落水した水が、このそれぞれの地点まできているだろうと思われる。よい結果が出ているといえるのではないか。

・三川合流部の水の年齢は10年くらい。今回の涵養効果が三川合流部にすぐに影響が出てこないのは当然だと考える。

・夏場の水と冬場の水の濃度はどうなっているのか。質は異なるのか。

⇒降水量が多ければ涵養量も増えるため、地下水は薄まる。よって、夏場と冬場では地下水の質も異なっていると考えられる。

・今回、落水した水は万水川に到達しているのか。

⇒到達していない。

・この検証は、落水したものの、水位の変化が見られなかったので、水質により涵養効果を調べようとしたということでしょうか。

⇒その通りである。

・山に降った雪の量が地下水に影響していると考えerかどうか。

⇒積雪量が地下水量に影響を与えていることは、いくつかの研究で指摘されている。積雪が少なければ、地下水量の減少にもつながっていくと思われる。

・北アルプスの積雪量について、低下しているようであるが、なくなってしまったわけではなくて、雪が水になって川の水が増えているという報告も耳にしたことがある。

・雪山は巨大なダムのようなもので、水資源にとってとても大事なものだと思う。

・今回の実験で涵養効果が認められたということだが、令和5年度もこの実験を続けてもらえるのか。今後の見通しを教えてください。

⇒令和5年度予算に関係予算が計上されていないため、見通しについては不透明な状況ではあるが、令和5年度、令和6年度のどこかで予算を確保し、実験を行っていきたいと考えている。【事務局】

・よい取組、実験だと思うので、また予算要求をしていただければと思う。

・実験、検証は2回、できれば3回くらいやったほうがよいので、予算の確保をお願いしたい。

・資料9ページの地下水面図の比較というページの図の部分で、谷になっている部分があるが、この部分に地下水の経路がある。もし、また実験、検証をする機会があれば、水質調査を行う際には梓川の水も採ってもらいたい。梓川の水質を調査することで、実験結果がより明確になると思う。

## 2 協議事項

### (1) 令和5年度 事業計画（案）について

#### 【資料3に基づき説明（事務局）】

- ・水田機能維持・地力増進推進事業に関して、水張りは涵養効果があるという考え方でよいか。

⇒効果はあると考えている。

- ・ビオトープの拡張支援について、新たなビオトープの完成前後で地下水位にどういった変化があったのか検証したほうがよい。

- ・地下水涵養については、国の動きも掴みながら、多様な涵養施策を検討してもらいたい。

## 3 その他

### (1) アルプス地域地下水保全対策協議会による（仮称）「松本盆地流域水循環計画」の策定について

#### 【計画策定について説明（事務局）】

- ・松本盆地は1つの巨大な水瓶なので、各市町村が一緒に取り組んでいく必要がある。是非、関係市町村と連携を取りながら進めていただきたい。

<終了 16:00>

以上